# シャーデンフロイデの共有による自尊感情の変化

渡邊ひとみ
（同志社大学心理学部）

## 研究背景と目的

シャーデンフロイデとは、他者もしくは他集団が不幸に見舞われることにより喚起される喜びの感情である（Heider, 1958）。自尊感情が低いほど優れた他者の存在によって自己脅威が引き起こされやすく、その結果、優れた他者の身に不幸が生じるとシャーデンフロイデが喚起されやすいといわれている（澤田, 2008; van Dijk, Koningsbruggen, Ouwerkerk, & Wesseling, 2011）。このような自己高揚との関わりをもつ反面、シャーデンフロイデはこころの内だけにとどめられることの多い感情として捉えられてきた。しかし、仲の良い友人や気の知れた仲間内で、他者の不幸を「いい気味だ」と言い合ったり、喜んだりした経験も少ながらずあるだろう。そこで本研究では、喜びの感情を理解してもらうというシャーデンフロイデの他者との共有行為がさらなる自尊感情の高揚をもたらすのかどうかを検討する。

## 方法

### 調査時期と調査対象者

質問紙調査を 2012 年 7 月に実施した。調査対象者は大学生 291 名（男性 138 名、女性 153 名）であり、平均年齢は 19.03 歳（*SD*=1.19 歳）であった。

### 質問紙の構成

**架空シナリオ**　Hareli & Weiner（2002）を参考にシナリオを作成し、奨学金の返還免除者を決定する場面を回答者に提示した。第 1 部では、「成績の良い同級生（A さん）の存在によって回答者が不利となり、羨望（envy）の感情が喚起される状況」が、続く第 2 部では「有利な立場にあった A さんが面接に失敗し、不幸に見舞われる状況」が描かれていた。

**シャーデンフロイデ**　他者の不幸に対する感情尺度（澤田, 2008）のうち、シャーデンフロイデを 6 件法で測定する 7 項目（「楽しい」「ゆかいだ」「満足だ」など）を使用した（$\alpha$=.94）。

**自尊感情**　Rosenberg（1965）による自尊感情尺度の邦訳版を一部改編し、「いま」という表現を用いることで測定時の自尊感情を測定する状態自尊感情尺度（安部・今野, 2007）を使用した（$\alpha$=.87）。

### 手続き

回答者にシナリオの第 1 部を読んでもらい、同級生の A さんに対して抱いた羨望の程度を 7 件法で評定してもらった。また、第 1 部のような状況下にあると想像した上で、状態自尊感情を評定してもらった。続いてシナリオの第 2 部を読んでもらい、不幸に見舞われた A さんに対するシャーデンフロイデの程度を測定した。その後、共有者あり群（147 名）には「同級生の不幸に対する正直な喜びの気持ちを友人に伝え、それに賛同してもらう」シナリオを提示したあと、また共有者なし群（144 名）にはシナリオの第 2 部を読んだあとそのまま、状態自尊感情を評定してもらった。

## 結果と考察

同級生に対する比較的強い羨望の感情とシャーデンフロイデが喚起されたことを確認した上で、共有者の有無×性別を要因とする分散分析を行ったところ、性別（$F(1, 287)=7.70, p<.05$）と交互作用（$F(1, 287)=4.32, p<.05$）が有意であった。単純主効果の検定を行った結果、男性（$F(1, 287)=5.33, p<.05$）において、共有者なし群が共有者あり群よりも、また共有者なし群（$F(1, 287)=11.68, p<.001$）において、男性が女性よりも自尊感情変化量が大きかった。友人からの受容と自尊感情の高揚との関連は先行研究において一貫して主張されてきたが、本研究では共有者あり群における有意な自尊感情の高揚はみられなかった。気持ちの共有はネガティブな機能をもたない（髙坂・池田・葉山・佐藤, 2010）との報告がある一方で、秘密の共有は男性においてのみネガティブな心理的結果との関連が認められている（茨木・余語・橋本, 2004）。よって今後は、シャーデンフロイデの共有行為が青年にとって何を共有する行為となっているのかに着目する必要がある。

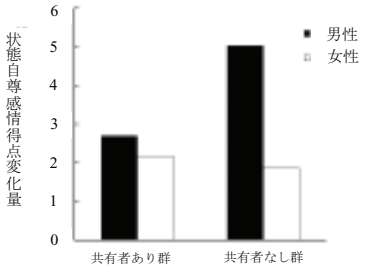

図 1. 共有者の有無別にみた状態自尊感情得点変化量